雑学書庫 知識の記録

目が耳に聞こえる音を変える、マガーク効果（McGurk Effect）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/11073/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

騒がしいレストランで友人と話すとき、私たちは知らず知らずのうちに相手の口元を見ています。口の動きが見えれば、音が少しかき消されても言葉がずっと聞き取りやすくなるからです。では、もし耳に聞こえる音と目に見える口の動きが食い違っていたら、どうなるのでしょうか。驚いたことに、脳はどちらか一方を選ぶのではなく、まったく別の第三の音を聞かせるのです。 この不思議な錯覚こそが「マガーク効果（McGurk Effect）」です。マガーク効果とは、簡単に言えば、耳で聞いた音と目で見た口の動きが食い違うとき、視覚情報が話し声の聞こえ方そのものを変え、実際には発せられていない音が聞こえてしまう現象を指します。 本記事では、マガーク効果が偶然発見された経緯、第三の音が生まれる仕組み、効果を強めたり弱めたりする条件、そして日常の中でこの現象が果たす役割まで、順に見ていきます。 耳と目が一緒につくる話し声 映像編集のミスから始まった発見 マガーク効果は、もともと探そうとしていた現象ではありませんでした。 (1) 赤ちゃんの言葉の習得に関する研究心理学者ハリー・マガーク（Harry McGurk）と研究助手のジョン・マクドナルド（John MacDonald）は、赤ちゃんが成長するにつれて話し声をどのように聞き取るようになるのかを研究していました。そのために技術者に、ある音節を話す映像に別の音節の音声を重ねて